ドジで不幸な私はボロボロです…

夢幻

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
ドジで不幸な私はボロボロです…

【Ｎコード】
Ｎ４７５９Ｓ

【作者名】
夢幻

【あらすじ】
ドジで不幸な主人公が友達と一緒に１日１日を過ごしていくお話です。

1日目（前書き）

初心者がかいた、無茶苦茶なお話です。その部分は、気にせず読んでいってください。
お願いします。

1日目

「うぎゃぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁ」
突然悲鳴をあげてすんません。宿題が何一つ終わってなくて……
……。
自己紹介が遅れました。僕の名前は佐藤（さとう）　優也（ゆうや）といいよく佐藤って呼ばれてます。
話を戻しますが宿題が全く終わっていません。っていうかもうすぐ受験です。こんなんで受かるかどうか心配です。
あーもうめんどくさいいいいいいいいいい。
……こんなこと考えてる間に宿題やっとけばよかった。
「げっ。インク切れた……。」

「なんでこんなに忙しい時にボールペンかいにいかなきゃなんねーの？」
家から自転車で五分で着く所にあるのに信号が多くなかなかたどり着けない。毎回信号が赤になる直前で着くなんて。
「やっと着いた…。　あっサイフ忘れた。」
やっと着いたのに一回帰ってまた行かなくちゃいけないなんてもおーさいあくだぁぁぁぁ！
ガッシャァァァァァァン
「え？　なにこれ　トラック？危なぁぁぁぁぁぁぁぁ！！。」
やばい。本気で死ぬと思った。

「やっと帰れた…。今生きてるのが不思議だ。早く続きやろ。」
スルンッ　ドンガラガラガッシャァァァァァァァァァァン
「痛ぇぇぇぇぇ！頭から落ちた。やばい、むちゃくちゃ痛ぇぇぇぇ！」

「えっと…まずは社会からやろ、えーと何、（　）に当てはまる言葉を書け。
『欧米列強は、資源や市場などを求めて、アジアやアフリカの地域を軍事力によって植民地にこのような動きを（　　）主義といった。』
帝国主義っと。」
　ピーンポーン
「はい。今行きまーす。」
　ぐきっ
「痛ぁぁぁぁぁぁぁ！！足、つったぁぁぁ」
5分後
「やっと足から痛いのがなくなったぁ。やばっ、はやくでないとっ。」
「はーい。どちら様ですか？」
「おーすっ！」
「……」
「待て待て！帰ろうとすんな！」
　こいつは、宮田（みやた）　双馬（そうま）と言い、いろんな人からソーマと呼ばれている。
　よくしゃべるので、友達は多いが、とてもウザがられることが多い奴だ。
「俺がなにしに来たと思ってんだ！」
「どうせ『遊ぼうぜ～』みたいなこと言いに来たんだろ。」
「ぐっ、まっ、まあそのとうりだが、今回は、一緒に宿題やろうともおもってんだよ。」
「……はぁ？」
　おまえそんなこと言うやつじゃねーだろ。

おまえは、『永遠に、遊んでやるぜぇー！』ってやつだろうが。
「いや。だから、勉強するぞって言ってるんだよ。」
「分かったから黙れ！俺の部屋に来い。」
「よし。わかった。」
だるい。めんどくさいやつが、増えた。はぁ。

「で、さっきまでなにやってたの？」
「宿題。」
「教科は何？」
「社会。」
「他は、何やってたの？」
「そろそろ黙れ。追い出すぞ。」
「ごめーん。」
あぁぁぁぁぁもうはんぱなくうぜぇぇぇ！
何こいつ。邪魔しに来たの！もぅ、早く終わらせて帰れぇぇぇ！
「なあ、これどう解けばいいの？」
「移行使って計算しろ。」

2時間後

「大体終わったから帰るわ。」
「おう。じゃなー。」
二度と来るなっ！
「やっと、まともにできる。あいつが、なんでもかんでも聞きやがって。」
ぐぎゅるぅぅぅぅぅぅぅぅぅ
「はらへった。なんか食べよ。」

「冷蔵庫の中、なんもねぇ！」
むちゃくちゃ腹減ったにのに、どーしよ。

「……何か買いにいこ。」

まさかまたあのコンビニいくとは、大体信号で止まるのに。
げっ、さっきのトラックのせいで、道が、通行止めになってる。
回り道して、コンビニに行こ。

「何、買おうかな。ポテトチップスにするか、それとも、弁当にするか。」
ガサッ
あ、ポテチとられた！
「仕方ない、弁当買って帰ろ。」
うわっ、けっこうレジ混んでる。並ばないといけないのか。はぁ。

１５分後

「やっと、買える。」
「４９９円になりまーす。」

「そろそろ今月の小遣いがなくなる……。あと2週間もあるのに、残金３０１円か。」
俺。今月何買ったっけ、……そーいや漫画買ったな。はぁ、買うんじゃなかった。あっ！宿題！」
やばい、宿題のこと、思いっきり忘れてた。早く帰らねーと。

「えっと、何が終わってなかったっけ。数学と国語か。」
あっ、国語は、漢字書くだけだ。とっととやっておわらせよ。
「えーと、（　）の文字を漢字にしなさい。『　１番　パソコンの修理を（いらい）する。』」

４５分後

「国語終わったぁー！」
もう夜の8時だよ。じかんかけすぎた。
グラグラグラグラグラグラグラ
「えっ、地震？　ぎゃぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁ本棚倒れて宿題つぶれたぁぁぁ！」

1時間後

「片づけ、おわったぁ。」
早く、数学やらねーと、やばい。

2時間後

「おわったぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁ！」
やっと、おわった、もう11時じゃん。そろそろ寝よ。

次の日

「宿題、1教科だけ、忘れたぁぁぁぁ！」
もうだるい、学校に来るとき2回も車に轢かれそうになるし、転んで怪我するし、
ほんとーに、だりぃぃぃぃぃぃぃぃぃぃ！！

1日目（後書き）

初心者ですので、アドバイスおねがいします。

二日目（前書き）

優也の学校での話の続きと、家での話です。
とりあえず、読んでみてください。

二日目

「なんで、あんなに頑張ったのに、忘れちまったんだろう。」
僕の名前は、佐藤（さとう）　優也（ゆうや）と言います。実は、先日せっかくやった宿題を、一つだけ忘れてしまいおもいっきり説教をくらってた所です……。
「やっと、説教から、解放されたぁぁぁぁぁ！」
ホントにあの先生、何回同じ話すんだ？あの説教の中でも三回は、言ったぞ。ったく、めんどくさい。
「うるさいぞ！佐藤！」
いや、十分お前の方がうるせーから。
「はーい、すんませーん。」　やっと、帰れるわ、ってえぇぇぇぇぇぇぇ！なんで、こんな廊下のど真ん中で人が倒れてんの？おかしいだろぉぉぉぉぉぉぉぉぉぉぉぉぉぉ！
「おいっ！大丈夫か！しっかりしろ！」
「だっ誰かは、知らんけど、」
ぐぎゅるぅぅぅぅぅぅぅぅぅぅぅぅぅぅ
「腹減ったから、何か飯をくれ。」
……お前ぇぇぇ！腹減っただけで、こんなとこで倒れんじゃねぇぇぇぇぇぇぇぇぇぇぇ！
「ふざけんな、お前、もうそのままくたっばちまえ！」
「おまっ、倒れてる人にそんなことを言うのか！」
「そんなこと言って悪いか！お前は、何日食ってなかったら、廊下で倒れられるんだ？」
「何日って、ちょっと待ってな、……分かった！１０時間だ！」
「……お前の腹どうなってやがる、たった１０時間食わなかっただけで、なんで、倒れられるんだ。」
「知らん、そんなことは、とりあえず飯をくれ！」

やばい、こいつ、あいつ並みにうざいぃぃぃぃぃぃぃぃ。あいつってのは、宮田（みやた）双馬（そうま）っていう半端なくウザいやつだ、思い出しただけで、うぜぇぇぇぇぇぇぇぇぇぇぇぇぇぇぇぇぇ！

「だから、早く飯をくれって言ってんのわかる？」

「自分何言ってんのか、分かってんのか、たった１０時間で腹減って倒れてるやつに、飯を渡すやつがいると思うか？」

「わかってるからこそ頼んでんだよ。」

「はぁ、分かった、ついてこい、おにぎり買ってやるから。」

「いいのか、マジでいいのか！」

こいつしつけぇぇぇぇぇぇぇぇぇぇぇぇぇ！なんで、俺の周りにいるやつは、こんなにウザいやつばっかなの？誰か教えてくんね？

「マジでありがとう、金は忘れるわ、寝てないからめまいはするわで大変だったんだよね。マジで助かった、ありがとう。」

「うん、今すぐ、そこで倒れとけ。」

「おまっ、いきなりひどいこと言うなや。」

「お前のせいで、こっちは、予定にない出費だぞ！こっちの気持ちも考えろ！」

「ごめんって、まぁ、明日になったら返すから、名前を、教えてくれ。」

「いやだ、なんでお前なんかに教えなくちゃいけない。」

「金返すためだけど、文句ある？」

「ちっ、はぁ、わかったよ、俺の名前は佐藤優也って言うから、早く返せよ！お前名前も教えろ。返してもらう時に困るから。」

「俺の名前は、天河（あまかわ）　桐覇（きりは）って言います。できるだけ早く返すからな。」

「てめぇ、忘れてたら、とび蹴り食らわすからな。」

「分かった！分かったから！とび蹴りはやめてくれ！」

「返してくれたらしねぇから大丈夫だって。」

「……そうか、じゃあまた明日、会えたら」

「んじゃ、また。」
やっとウザい奴から離れられた、無茶苦茶めんどくさかったあんなにもウザいとは思ってもみなかったあいつのせいで、飯が減っちまった、今飯買ったばっかだけど、同じコンビニで、なんか買って食べよ。

「げっ、あいつに金貸したせいで、27円足んねえ。どうしたものか………。」
「お客様、お客様こちらのレジをお使いください。」
「すいません、また後で行きますんで。」
アイツ、本当にむかつくぅぅぅぅぅぅぅぅ！明日思い切り文句を言ってやる。
「よし、一回帰ろう！」

20分後

「ただいまー。」
「おかえりー、優也」
今のは、俺の母親で、舞華と言う、年齢はまだ教えてもらってないが、たぶん37歳だと思う。
「ちょっと、帰ってくるの遅くないか。」
「仕方ねーだろ、あまりにも腹減ってたから、そこのコンビニで、少しだけ飯買って、食いながら帰ってきたんだから。」
「で、どれだけ使った？」
「138円使って、おにぎり買ったけど。」
「そうか、じゃあ、お前の昼飯抜きな。」
えぇぇぇぇぇぇぇぇぇぇぇぇぇぇぇぇ！ちょっ、何でだよ！俺なんか悪いことしたか！
「なんでだよ、母さん！」
「早く、帰ってこいって、昨日言っただろが。ちゃんと言ったぞ、

忘れたら、明日昼飯抜きって言ったぞ。」
………どうしよう、原因言われても、まったく思い出せん。
「…………ごめん、お願いだから飯、食わして。」
「駄目だ、約束を守らんかったお前が、悪い。」
やっちまった、何でそういう事忘れたんだろう、…………………
…あっ、彼奴のせいだ、あの桐覇って奴のせいだ。明日、あいつに文句言ってやる。そして、思いっきり蹴ってやる。

3時間後

ぐぎゅるぅぅぅぅぅぅぅぅぅぅぅぅぅぅぅぅぅ
うわっ、すごいでかい音で、腹がなってやがる。コンビニ行ってなんか買いに行きたいけど、あいつに金貸したせいで何も買えないし、あーもうあいつをぶん殴りてー！
「はぁ、母さんに頼んでなんか作ってもらおう、作ってくれるか、わかんねーけど。」

「母さん、なんか作ってくれー。頼む！」
「うるさい、自分の部屋に戻っとけ。」
それって、自分がテレビ見てるからだよなぁ、めんどくさいからだよなぁ、はぁ自分の部屋に戻ろ。

ぐぎゅるぅぅぅぅぅぅぅぅぅぅぅぅぅぅぅぅぅぅぅぅぅ
「腹減ったぁぁぁぁアアアアアア！けほっけほっ叫んだせいでのど痛い。」
「うるさい！優也！そんなんだから、体即壊すんだよ！」
そんなこと言われても困るんだけど！物壊したら思いっきり怒られる事わかってるから、叫んでんだけど、それで、怒られるなら俺は、何をしたらいいんだよ。
「もう無理限界、俺寝る。」

3時間後

「ふぁぁぁぁぁぁぁぁ、今何時だ？げっ、もう8時じゃん。」
早く戻らねーと、飯抜かれる。

「優也、お前おりてくんの遅すぎ、飯抜きな。」
「ちょっ、俺また飯抜きかよ。さすがに、昼飯と晩飯抜かれたら、明日もたねーぞぉぉぉぉぉぉぉぉぉ！」
「だから、降りてくんのが、遅いから悪いんだよ。」
「あぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁ！もう本当に嫌だぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁ！」

二日目（後書き）

ここまで、読んでいただきありがとうございます。
できれば、感想をお願いします。

三日目　前半編（前書き）

やばい、駄文でぐだぐだになっちまった。
そんなことは、気にせず読んでってください。

三日目　前半編

「うぅ、やっと飯食えた。久々に食う飯は、うまい。でも、食べなさすぎて、食ってる感覚しねぇ。」

どうもこんにちは、佐藤(さとう)　優也(ゆうや)って言います。昨日、昼飯と晩飯を抜かれて思いっきり空腹で、やっと飯が食えたところです。

「やばっ、もうこんな時間じゃねーか！学校行かねーとやべぇ！」

「はぁはぁはぁ、なんで、俺の家からこんなに遠いんだよ！」

あぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁ！もうなんで、家から学校まで３０分もかかるんだよ！ふざけんなよ！もう学校行きたくねぇぇぇぇぇぇぇぇぇぇぇぇぇ！もしくは、引っ越ししてぇぇぇぇぇぇぇ！

「あ！信号に間に合わなかった、絶対に遅刻だぁぁぁぁぁぁ！」

キーンコーンカーンコーンキーンコーンカーンコーン

「間に合ったぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁ！はぁはぁ、今日寝過ごすんじゃなかった。」

もうだめだ、絶対にもう走れねぇ、って一時間目体育じゃん、俺死んだ………………

一時間後

「俺、生きてる？はぁ、何で今日にかぎって体育の内容が持久走なんだよ！畜生！」

「優也、うるさいぞ～、発狂したのか？」

あぁぁぁぁぁぁぁぁ！こいつのこと忘れてたぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁ！こいつは宮田(みやた)　双馬(そうま)って言うとてもうるさいやつだ。いっつもいらないこと言うので、ウザいと思われることが多いやつでもある。

「うるさい、今すぐにここから離れろ。」
「お前っていつも俺だけに、冷たいよな！なんでだ！」
「お前、分かってなかったのか？とことん残念なやつだな。」
「何が、分かってないんだ？」
「はぁ、もういい何も聞くな。で、なんの用だ。」
「いや、うるさいからさ、何かあったのかなーって思って。」
そんなどうでもいいことで、話かけてくんなよ、一回そこでくたばっとけや、本当にウザいんだけど。
「なんでもないから、早くあっち行け。」
なんで、こいつはこんなにも、うっとうしいの？誰か教えてくんね？
「おーい、そこの……えーと、誰だっけ？」
じゃあ、話しかけんなよ、誰だが知らねーけど。
「おーい、聞こえてるのか、そこのロン毛男子。」
それって、俺も当てはまるけど俺のことなのか？
「だから、聞こえてんのかー、それとも無視してんのか。」
いや、名前言わなかったら、誰かわかんねーだろ。
「思い出した！佐藤だっけ、金返しに来たぞー。」
あいつかぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁ！えーと天河（あまかわ）桐覇（きりは）だっけ、そういえば、あいつが廊下で倒れてるから、俺が飯を食えなかったんだよな。よしっ、飛び蹴りするっていたんだから、やってこよ。
「おーきたきた、昨日はすまん。」
ドカッ
「痛っ、ちょっとお前金返さなかったらするって言ってただろーが！」
「そうだったけ？まあいいか。もう一回やるから、そこに立っとけよ。」
「いやいやいやいや待てや、お前！突然なんなんだ！」
「いや、お前のせいで昨日昼飯と晩飯食い損ねたんだよ！」
「知るか、そんなこと。俺そんなことで飛び蹴りくらったのか！」

「そうだけど、何か？」
「だから、蹴るなって言ってんのわかる？本当にもうやめてくれねーか！」
「嫌だし、お前のせいでこうなったんだから、やってもいいじゃん。」
「やめろ、駄目だって言ってんだろが、馬鹿かお前は。」
「誰が馬鹿だ、馬鹿はお前だろーが。」
「馬鹿って言うな！とりあえず、はい、昨日借りた２００円。」
やっと帰ってきた、なんであいつ金忘れたんだ？聞いてみよ。
「そういや、なんで昨日お前金忘れたの？」
「えーと……誰かに金借りるって言って話相手ができるかなーって思って、友達いなかったから。」
俺そんなことに巻き込まれたのか！適当に話しかけたらよかったじゃん！もう嫌、こいつとかかわりたくない。
「とりあえず、友達に、なってくんね？」
「うん、絶対に嫌！」
「そんなはっきり言わなくても……。」
だって、俺お前のことが嫌いだもん、かかわりたくもないし。ってかなんで俺なんだ？他の人に頼めや。わざわざ金借りてまですることじゃねーだろ、それ。
「あぁーもういいや、友達になりゃいいんだろ。」
じゃねーと、お前うざいし、かかわりたくないからね。
「それは本当ですか！よかったー、これでやっと友達が出来たー、八人目だよ、もう！」
「それって本当に言ってる？」
「俺ってあまり嘘つかねーぞ。嘘つく意味ねーし。」
「はぁ、んじゃ、また後で。」
「じゃーねー。」
やっと、ウザいやつと離れられた。やっぱり、俺って不幸なのかな？周りに集まるやつは、全部ウザいやつばっかだし、めんどくさ

いことに巻き込まれるし、おかげで、いつも疲れる。
キーンコーンカーンコーンキーンコーンカーンコーン
「げ、授業始まったし、だるい減点だぁァァァァァ！」

「おいっ！佐藤！お前今まで何してた！」
「えーと……友達と話してました……」
「お前そこで立ってろ。授業再開するぞー。」
またあいつのせいでだるいことになった…………あいつ絶対にいろんな人に迷惑かけてるだろ、例えば、家族とかに、たぶんそうだろうな。
「いつまで、そこにいるつもりだ、早く席に座れ。」
お前さっきそこに立ってろ！って言ってたろーが！ふざけんなよ！でも、また言われるのめんどくさいし早く座ろう。
「あっ忘れてたわ、お前にそこに立ってろって言ったの忘れてたわ、まぁいいか。とりあえず座れ。」
今それ思い出すかぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁ！ふざけんなぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁ！いい加減にしろよ、こん畜生がぁぁぁぁぁぁぁぁ！
「はぁ、だるい。」
「何がだるいの？咲也？」
「へ？なんか言ったか。」
って、えぇぇぇぇぇぇぇぇぇぇぇぇぇぇぇ！お前同じクラスだったのかぁぁぁぁぁぁ！天河だったけ？
こんなにウザい奴と同じクラスでしかも席は隣かよぉぉぉぉぉぉぉぉ！

1時間後
「授業も終わったし、もう一回聞くけど何がだるいの？」
「教えてやろう、お前と同じクラスで席が隣だからだ（笑）」

「お前ってひどいこと言うよな、傷つけられるこっちの身にもなってみろ。」

こっちの身にもなってみろだと、ふざけんな、こっちは精神面と肉体面でもうボロボロなんだぞ、変わりたいなら頼むから変わってくれや、変われるならな。

「大丈夫だ、気にするな、俺は問題無いから。」

「お前に問題が無くてもこっちには問題があるんだよ！」

「だから、何なんだ？」

「もういい、この話は終わりにしようか。でもうすぐチャイム鳴るけどどうする？次確か移動教室だけど。」

「あっ、忘れてたぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁ！」

あと一分でチャイム鳴るじゃん！次は確か理科だったよな………………理科室まで行くのに走ってももう絶対に間に合わねぇしぃぃぃぃぃぃぃぃぃぃぃぃぃ！あぁ、アイツのせいでまた減点だぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁ！

「おーい、優也ー行かないのかー。」

「うるさい、そんなこと言っている暇があるなら早く行った方がいいだろ。」

「あーそうだな、でもお前待ってるから早くしてくれ。」

はぁ、おまえ何言ってんだ、勝手に行ってたらいいだろが馬鹿が。

「いいから先に行け！」

「っ！分かった、んじゃ先に行ってるぞー。」

キーンコーンカーンコーンキーンコーンカーンコーン

「授業始めるぞ、全員席につけ。」

ガラッ

「遅れてすいません、すぐに席に座ります。」

「座らなくていい、そこに立っとけ。」

あぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁ！またこいつのせいで立たされたぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁ！腹立つわぁぁぁぁぁぁ

ぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁ！
「ドンマイっ、優也。」
こいつ、誰のせいでこうなったのかわかっているのか？わかってなかったらこいつ相当馬鹿だぞ。
「どうする優也、謝っとくか？それとも、このまま立っておくか？」
「ふざけんな、誰がこのまま立っておくって言った？謝って座るに決まってるだろ。」
「おい、お前ら立たされているのわかってんのか、なぁ。」
「すいません、先生。」
はぁ、またこいつのせいでめんどくさいことになった、これで謝ってもほとんど無駄になったぞ、さて、どうするか…………
「先生、すいません。席に座らせてください。」
あっ、こいつ先に謝りやがった、俺が立っている理由こいつなのに、本気でふざけてんのかこいつ。
「先生すいません。」
「二人とも早く席につけ、授業再開するぞ、んじゃあこの問題解いてみろ、この部屋にいなかったわけじゃないから答えられるよな、佐藤。」
「うぅ、分かりません……」
わかるかぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁ！俺さっきまで天河と話してたよね！授業聞いてなかったよ、俺！ってよく考えると俺が悪いんだよな、はぁ。
「じゃあ、天河答えられるか。」
「細胞分裂です。」
…………あいつってあんなに頭よかったのか、なんか複雑な気持ちだ。
キーンコーンカーンコーンキーンコーンカーンコーン
やっと授業終わった、もう帰りたい、でもまだ４時間あるんだよな、はぁ。
「もう嫌だぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁ！」

三日目　前半編（後書き）

ここまで読んでいただきありがとうございます

三日目　中盤編（前書き）

駄文のできあがり！！

三日目　中盤編

「あ～1日ってこんなに長かったけ？」
どうもこんにちは、佐藤（さとう）　優也（ゆうや）と言います。さっきの発言に「知るか」って言った人、そんなことつっこまないでください。こっちも言いたくて言った訳じゃないから。
「知るかそんなこと、寝てたら気が付けば終わるって。」
「ソーマ、俺等は今受験生だぞ、そんなことしてたら内申点下がるだろ。」
「気にするなっ！！！」
「気にするわっ！！！馬鹿かお前はっ！！！！」
「馬鹿ですけど、何か？」
「……やっぱりお前といると疲れるわ。という訳で俺は寝る！！」
「言ってることが、意味不明なんだよ！起きろ！」
……こいつうるさい、なんかすごい殴りたい、今殴ってもいいかな？まぁ、殴るのは一応やめておこう。
「うるさい、寝させろ。」
「いいから起きろ！もうチャイム鳴るぞ！」
「まだ鳴ってないだろ！いい加減黙れ！こっちはあんまり寝てないんだよ！」
「そんなこと言ったって時間は止まらないんだよ！」
「当たり前だ！んなことはわかってるわ！」
「じゃあ寝させてくれ、それではおやすみ～」
「だーかーらーもうチャイム鳴るっつてんだろうがぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁ！！」
「だーかーらー寝させろって行ってんだろうがぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁ！！」
キーンコーンカーンコーンキーンコーンカーンコーン

「ほらお前のせいで一睡もできなかったじゃねぇか！！！！！」
「昨日から寝てないお前が悪いんだろうがぁぁぁぁぁぁぁ！」
「勉強してたんだよ！文句でもあっか！」
「そんな時間から勉強すんなっ！帰ってからやれや！」
「めんどくさいから遊んでるんだよ！」
「めんどくさがるなっ！ちゃんと勉強しろ！」
「嫌だ！」
「みんなちゃんと席に着け～」
　うぎゃぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁ！！先生来たぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁ！！まったく寝れなかったぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁ！！あいつ後で思いっきりぶん殴ってやる、絶対に殴る、殴ってやるんだぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁ！！！

５０分後

「や、やっと授業終わった………………くそ眠いのに起きてるのしんどかった…………………もう動く元気も無い……………………今すぐ帰りたい。」
「お前、授業中白目むいてたぞ、大丈夫か？」
「……………ごめん、なんか言ったか？？」
「お前本当に大丈夫か！」
「……………ごめん、本当に何も聞こえない、なんて言ったんだ?紙に書いてくれ、頼む。」
「こいつ眠すぎて体の機能が停止してやがる、紙に書いたらいいんだな、えーと、本当に大丈夫か？っとよし、これでいいな。」
「…………何も見えん。」
「こいつ目が悪いの忘れてた！こいつの眼鏡は……………あっ、あったあった、これかけてから読んでみろ。」
「ｚｚｚ」
「………………………こいつ寝てやがる。今までなら思い

っきり蹴って起こすけど今日はいっか。優也ー死ぬなよー（笑）」
キーンコーンカーンコーンキーンコーンカーンコーン
「あっ、チャイム鳴った、優也ー先生に見つかるなよ。」
「わかった、先生来たら教えろ。」
「っ！お前いつから起きてた？」
「チャイムで起きた。」
「んじゃ、起きとけよー。」
「嫌。」
「起きとけよ。」
「嫌。」
「じゃあ先生来ても起こさないからな。」
「もうそれでいいや。」
「全員座れー、授業始めるぞ。」

1時間後

「よかったな、見つからなくて。」
「あぁ、まったくその通りだ、危なかったぁ、俺の前の席まで来るんだよ、見つかると思った。」
「起きてたのか、お前？」
「お前が起こしたんだろ、起きてたのかって聞くな。」
「あっ、そっか、忘れてた。」
「次こそは、寝させろよ、絶対に。」
「寝させてたまるか（笑）」
「…………ぶん殴る。」
「…………え？」
「ちょっと、そこに立ってろ。」
「ちょ、待て、やめろ、来るなぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁ！！！」
「待てや、こらぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁ！！！！！」
「来るなぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁ！！！！！」

「逃げるなああああああああああああああああああああああああああ！！！」

俺、次の時間死ぬな。

三日目　中盤編（後書き）

ここまで読んでいただきありがとうございました。

三日目　後半編（前書き）

三日目第3部完成！

三日目　後半編

「動きすぎた……もうだめ死ぬ、動きたくない。」
「ははははははは、さっきはすまん。悪気しかなかったが許してくれないか！」
「ふざけてんじゃねぇよ。一回死ぬか？」
「……そんなに怒ってる？」
あたりまえだ！俺がどんな思いをして追いかけてたと思ったんだ！腹減って動きたくないのにいろいろやってきやがって殺す気か！ふざけんじゃねぇ！
「お、おい、だいじょうぶか？なんかブツブツ言ってるけど？」
「え？何？死にたいの？俺はお前を思い切り殴りたいんだが。」
「わかった、わかったから許してくれ、本当に頼む！」
こいつ、馬鹿なんじゃねぇの、許すわけ無いじゃん。思いっきり殴り倒す！
「え？お前今なんて言った、許してくれ？許すわけ無いだろ、一回思いっきり殴るから歯を食いしばれ。」
「止めて、お願い、俺お前に本気で殴られたら起きれなくなるから。」
「いや、絶対に殴る。これは決定だ、じっとしてろ、いくぞ！」
パンっ！！！
「痛い痛い！！！折れる折れる！」
「あー、護身術習っといてよかったー。」
あー！こいつ護身術習ってんの忘れてたぁぁぁぁ！！って折れる折れるぅぅぅぅ！！
「もうやめる？それとも、このまま、腕折る？」
「やめるから、やめるから離せぇぇぇぇぇ！！」
「どうしよっか？このまま投げることもできるけど。」

「人の話聞いてる？離せって言ってるの聞こえてる？」
「え？なんて？もっとやれって？骨でも砕こうか？」
「ちょっと待て、やめろ痛い痛い痛い！！！離せ、痛いってやめろ！」
「ははははは、大丈夫、大丈夫、折らないから、代わりに砕くけど。」
「うぎゃぁぁぁぁぁぁぁ！！痛い痛い痛い！！！離せぇぇぇぇぇ！！」
「うるさいなぁ、離したらいいんだろ、離せば。その前にとどめっ！」
ぐきっ
「右腕が反対に曲がったぁぁぁぁ！！！！こいつマジでやりやがったぁぁぁぁぁぁぁ！！！」　こいつのせいで俺がする事は昼食じゃなくて病院に行くことかよ！いててててマジで腕の関節反対に曲げやがって、何も持つこともできねぇ。と言うか、動かねぇ。
「せ、先生右腕が大変な事になったんでどうしたらいいですか？」
「はぁ？なんだこれ！何をどうしたらこうなるんだ！腕を反対に曲がることが普通あるか！」
　それは俺が聞きたいこと何だが、今こんなに落ち着いてるけど結構痛いんだぞ、この反対に曲がった腕。どうすんだ、これ。もう完全に動かねぇぞ。
「佐藤！お前いまから帰って病院行ってこい！」
「はぁ、分かりました、それでは帰らせてもらいます。」
いまからこんな腕で帰らないといけないのか。あーあ、もう腕を挙げる事も出来なくなってきた。早く帰ろう、そして病院に行って腕見せて早く帰って寝よう。そうしよう。
「優也～ごめーん、やりすぎた～。」
　んなっ、こいつこんな時に軽く謝るか！お前の腕も同じようにしてやろうか！

「ちくしょ～、病院行ったら先生に『あなた何をしたらこうなったんですか！？』って言われた～。分かってたけど、やっぱり嫌だ～。」
「優也～。お帰り～、ってどうした、その腕！」
「えーと……護身術習ってるやつに殴り掛かったら折られた、って言ったらどうなる？」
「とりあえず、学校に行って折ったやつの親に慰謝料ふんだくる。」
「それだけはやめてくれ！めんどくさい事になることはわかってるから。」
　そんな事もわかんないのか！どう考えても、警察入ってきそうな予感しまくってるよ。いい加減にしてくれよ！
「でもな、優也、人間やらなければいけない時だってあるんだぞ。と言うわけで警察行くぞ。」
「嫌だ、行きたくない。ちょっ！折れてる方の腕つかむなって痛い痛い痛い！！！！」
「ごめん、忘れてた、お前のことで警察行くのに。」
「いたたたた……。母さん、まず学校に行こう。いきなり警察は、やめよう。お願いだから。」
「なんで、警察じゃダメなんだ？」
　そんなのいきなり警察行ったら、絶対学校の生活指導の先生が来るからに決まってるだろ！いちいちめんどくさいことに巻き込まれるは、しかも、絶対その後学校だけの問題になって俺と双馬と先生で話し合う事になるのはもうわかってるんだよ！！
「……学校で起きたことだから、まず学校に話してからだと思ったからだけど。」
「それもそっか。んじゃ、学校行くぞ。」
　セーフ……。今考えてたこと思いっきり言いかけた……。危なかったぁ～、これ言ったら絶対『うるさい！！』とか『いちいち言うな！』とか言われるんだろうな……。
「いちいち待たせるな、早く行くぞ。」

「ん、おう、ちょっと待ってて。」

15分後

「で、なんでこんなことになるんだ？」

今の状況は学校中の先生が俺と母さんの周りに集まって前には警察官、予想よりめんどくさい事になってしまった……。今すぐにでも帰りたい（泣）

「で、何をされてこうなったんだ？」

「えーと……殴り掛かって、護身術使われて腕の骨を折られました。」

だめだ、ここ。気まずい。無理、精神がもたない。早く帰らして。

「原因は、あなたですので、慰謝料は払われないと思いますよ。」

こんなに気まずくしておいて、慰謝料は払われないのか……。ってええええぇぇぇぇぇぇぇ！！！！本当か、それ！あんなに痛い目にあってるのに、……、今気が付いた、これ自業自得じゃん、だから、慰謝料払われないのか、すげぇ馬鹿じゃん、俺。

「はぁ～、分かりました。すいません……。それでは、帰らせてもらいます。」

15分後

「優也！お前から仕掛けたせいで何にも貰えなかったじゃねぇか！」

あれ、俺最初に言ったよね。俺から殴って、護身術使って、折られたって言ったよね。母さん、覚えてないのか。もし、覚えていたら、すごく理不尽だぞ。

「そんなこと知らねぇよ！いきなり怒んなよ。耳痛いから。」

「お前が悪いんだろうが！いきなりなんだ！帰ってきたら腕反対に曲げられるは、その理由は友達に折られたって言うわ、ふざけてんじゃねぇぞ！！」

おいっ！今重要なこと抜けたぞ！折られた原因俺ってことが抜けてるぞ！

「もう、めんどくさい！早く帰って病院行くぞ、優也！」

「いや、もう行ったって！普通に帰ろう！」

やっとこの地獄から解放される……。帰って寝よ。

三日目　後半編（後書き）

感想ください

4日目（前書き）

暴言が少し出ます

4日目

「畜生、右腕が折れたせいで、絵を描くことも勉強もできねぇ……。」

あぁ、もう嫌、彼奴のせいだ。今日病院行ってギプスつけた時、思いっきり肉挟まれたし、おかげで折れた方の腕から血はダラダラ出るわ、ギプス付け直すって事で、ギプス二つ分の料金払わされるわ、肉体的にも金銭面的にも痛い……。

「おーい、優也。飯できたぞー！」

「はいよー。今から降りる。」

飯食ったら、左手で物を書く練習しよっと。

「いただきまっす。」

へぇ、今日は、シチューなのか。カレーがよかったなぁ。

「早く食べろ、冷めるから。」

「はーい。」

ぱくっ

「げ……。」

「どうかしたか？」

「ジャガイモに火が通ってない。」

「あ〜、すまん。」

え、そんだけ。謝るとかないの。ちょっと、意外だ。

「うん……。わかった。」

5分後

「うぅー、不味い。ほとんどの野菜に火が通っていなかった……。しかも、ルゥも溶けずに、固まってたし、とにかく不味い。」

味覚がおかしくなってくる。おかげで、今日、もうなにもしたく

ない、だから、もう寝る。

つぎの日

「寝坊したぁぁぁぁぁぁぁぁ！！！！もう間に合わねぇぇぇぇぇぇ！！！！」

「ん、おはよう、今日は遅いな。」

「今何時だと、おもってんだ！９時だぞ。遅刻しちまったじゃねぇかよ！」

「え、今日、学校あんの？なら、弁当作ってないわ。」

えぇぇぇぇぇぇぇぇぇ！！！！今日、水曜日だぞ！創立記念日なんかまだまだ先だし。

「わかった！もう行かないといけないから金貸してくんね？」

「え？そんな金無いけど。」

うわぁぁぁぁぁぁ！！！俺、今日昼飯抜きだぁぁぁぁ！！！

「時間ねぇから、行ってくる！」

「おい、ちょっと待て！あー、行っちゃったか。今日、暴風警報出て休みなのに。」

「はぁ、はぁ。何とか、間に合うか？ちょっと危ないか？あの信号さえ渡れれば！……渡れなかったぁぁぁぁぁぁ！！また、遅刻だぁぁぁぁ！！！」

あーあ、また、遅刻してしまった……。もう、駄目だ。諦めて学校行こう。

「あ、信号、変わった。早く行こう。それにしても、今日は静かだな。なんか、あったのか？」

５分後

「げ、今日、学校臨時休校かよ……。慌ててきた意味ねぇ……、

まぁ、遅刻にならなかっただけ、マシか。」
帰ろう、ここにいつまでもいる必要無いし。
「おーい、優也ー、制服で何してんのー。もしかして、何にも知らずに学校来たとか？」
「双馬、そのもしかしてなんだが、なんで、そういうお前はなんで制服なんだ？」
「はっははははっ！！寝坊した！！」
声でかい……。突然話しかけてきて、うざい……。しかも、どうせこの後、『どうせだから、一緒に帰ろうぜ！』とか、言うんだろうな。
「どうせだから、一緒に帰ろうぜ！」
当たった、こんなのあたっても、うれしくないけど。
「嫌だ！」
「そんなに大きく言わなくても……、そんなこと言わずに一緒に帰ろうぜぇー！」
「……うるさい、あっち行け、同類と思われたくない。」
「ひでぇ！お前、最近扱いひでぇ！」
うわぁ…もう周りから変な目で見られてる、最悪だ……。すごく帰りたいというかもう泣きたい。
「なぁ、もういいから、一緒に帰るから！早く黙って、お願い！」
「お前が下手に回るの久々だな、そんなに嫌だったか、俺の声？」
お前は、とにかく五月蠅いんだよ！そんなに騒いだら周りに迷惑だろうが！特に俺がだけど！
「うん…ものすごくいや、と言うか、五月蠅い。黙ってくれ。」
「やだ、なんで黙らないといけないんだ？言ってみろよ、なぁ。」
ブチっ
「うぜぇんだよ！黙れって言ってるのがわかんねぇのか！お前の脳はどうなってんだ！人の話は聞かないわ、わざわざ人を怒らすような言い方するわ、本当にうぜぇんだよ！わかったか！」
「こえぇ……、ごめん、そんなに怒ると思わんかった（笑）」

「てめぇ、何ヘラヘラしてんだ、謝るんなら笑ってんじゃねぇよ！！謝る気あんのか！」
「……ねぇな（笑）」
「うん、お前そこから動くな。ぶっ殺す！」
「にーげろー。殺されるー。なんてな、はははは。」
「てめぇ、俺に何の恨みがあんのじゃぁぁぁぁぁぁぁぁ！！！

5日目

「ふわぁぁ、よく寝た、今日は遅刻しないように早めに起きたな、時間は……6時かぁ、早く起きすぎたな。もう少し寝るか？どうするか、でも、これで寝てたらまた寝過ごしそうな気がする。」
　うん、とても暇だ。すること無い。テレビも見るものも無い。誰か来ないかな。
ピーンポーン
「勝手に失礼しまーす。ククク、驚くだろうな、あいつ。」
「で、そのあいつとは、誰なんだ？双馬！」
「ううぉっ！なんだよ、驚かせんじゃねぇよ。なんなんだよ。お前は。」
「お前がなんなんだ！いきなり不法侵入とはいい度胸じゃねぇか！今すぐ殴り飛ばすぞ！」
「ぎゃぁ！」
ごちん！
「いったぁ…、殴ること無いだろ。」
「まだ殴ってねぇ！」
　お前が勝手に驚いて倒れたんだろうが！
「とりあえず、仕返しに殴る！おんどりゃぁ！」
ブゥン
「あぶねぇ！いきなりなんだ、やめろ、この野郎！」
「お前からやったんだろうが！」
　やってねぇよ！お前の勘違いだし。ってまた殴りかかってきたし。
「この野郎！くらえ！」
ブゥン
「くらう……。」
ガン！
「いったぁ！頭うった、死ぬ……。」

「おーい、大丈夫かー。優也ー、生きてるかー。」
死ぬ、ほぼ無理、もう起き上がりたくない。あぁ、意識が遠のいていく……。さよなら。
「寝るんじゃねぇ！」
パッチーン！
「いってぇ！寝ようと思ってたのに叩くこと無いだろ！」
「今何時だと思ってんだ！」
「朝の６時２０分だよ！まだ寝ててもいい時間だよ！」
「起きるんだ。そして、桐覇に会ってしゃべり倒すんだ！」
ん？こいつって天河と仲よかったのか？
「なぁ、お前って天河と仲いいの？」
「うん、俺、あいつと幼馴染だけど。」
「へ？いつからなの？」
「幼稚園ぐらいかな、その時には、もう話してたよ。」
「結構仲いいな。」
「いや、今、絶交中。」
じゃあなんで喋り倒すって言ったんだ、こいつ！
「お前、馬鹿だろ……。」
「お前、今さらかよ…。とりあえず、絶交中のやつにハイテンションで話しかけたら、どうなるかって言う実験をするんだ！」
「やめとけ、関係を悪化させるだけだぞ。仲直りしたくねぇのかよ。」
「正直どうでもいい！」
「今すぐ死んで来い！お前は、その場の感覚だけで動いてんのか！」
「まったくもってその通りだ！」
駄目だ……、こいつと話してても、話終わらねぇ！
「……お願いだ、帰ってくれ。」
「話変えるなよ。」
くそっ！するどい！
「学校行くから、続きは学校でな。」

「？今日、土曜日だぞ。学校なんて休みだし、お前帰宅部だろ。」
え？ちょっと待て。今日何曜日だって？
「ちょっと待ってろ。カレンダー見てくる。」
げ……、今日、土曜日じゃん。昨日って金曜だったっけ？木曜と思ってた。
「な、言ったろ。今日は土曜日だって、お前、勘違い多すぎ。」
「……。」
「なんで黙ってんだ？」
「……恥ずかしい。」
「ははははっ！お前馬鹿だ！」
「てめぇにだけは言われたくねぇ！」
あぁ～もう、くそっ！恥ずかしいじゃねぇか、って、今思ったけど、彼奴って土曜だから家に来たのか？まぁ、勝手に入ってくるのは駄目だが。
「なぁ、今日土曜で暇だから来たのか？」
「いや、違うけど。」
「じゃあ、何のために？」
「ん～、暇だから？」
「俺に聞くなっ！あと、理由あってるじゃねぇか！」
「そうだな（笑）」
こいつ適当すぎてもう、何がしてるかもうわかんねぇ！
「もう帰れ。今すぐに帰れ。何も言わずに帰れ。」
「やだ！」
「帰れって言ってるだろうが！近所に迷惑なんだよ！」
「はいはい、わかった、わかった。じゃあ昼に来るから、家から出るなよ～。」
「二度と来るなぁぁぁぁぁぁぁぁぁぁ！！」
「じゃあまた数時間後～。」
また来るのか、あいつ！どうしようか……、そうだ！ずっと寝よう！それがいい、気が付かなかったで済ませたらいい

し、よし寝よう！
「おやすみ～。」
明日、彼奴の家に行って殴って帰ろう……

6日目（前書き）

6日目

「げ……、もう12時かよ、寝坊した……。」
今、8時だと思ってた……、いくら日曜だからって寝すぎた……
……、今から、飯食っても間に合うか？
「たぶん無理だろうな、あいつの家に行くのめんどくさくなってきた。」
「来なくていいよ、今いるから。」
「はぁ？いるわけ……、なんで双馬、こんな所いるんだ！」
「侵入した、それしかないだろ。」
うん、こいつ殺す！
「ちょっと待ってて～、お前を殺すための道具持ってくるから。」
「いや、ちょっと待て！勝手に入っただけで怒ること無いだろ。」
「勝手に入ってるだけで、ダメって事ぐらいわかれぇ！」
「えぇ～、そうなの？いろいろ課程をすっ飛ばしただけなのに？」
「お前は、とばしすぎなんだよ！」
こいつ、思いっきりなぐりとばしてぇぇぇ！！！
「そんなわけ無いだろ。俺は、すっごく小さな声で『おじゃまします』って言ってるんだぞ！」
「小さい声で聞こえるかぁぁぁぁ！！！」
「でも、ちゃんと言ったもんね！入る時言ったもんね！」
「お前は、子供か！頭脳は小学生並みか！」
「頭脳は中学生並みだが、子供だ！」
「はぁ、もういい、帰れ。」
「なんで？暇だから来たのに。」
「あ、忘れてた。ちょっと待ってろ、殺すから。」
「うん、帰る～。じゃあね～！」
「待て、動くな。ってもういねぇ！」
明日、殴り殺してやろうか、彼奴……、もういいや、めんどく

せぇ！どうでも良くなってきた…、次会ったら、どうしようか、とりあえず殴るか！
ピーンポーン
「こんな時間に誰だろう？」
「暇だから来たぜ！優也！」
「えーっと……誰？」
「最近、まったく話して無いからって忘れるのはやめろよ！天河って言ったらわかるか？」
「あ！覚えてない！誰？通報するぞ！」
「隣の席のやつの顔ぐらい覚えておけよ……。」
一回しかしゃべって無い奴覚えろって言う方が無理な気がするけど。
「まあ、いっか。で、何しに来たんだ？」
「得にすることが無いから来た。」
「じゃあ、用はないんだな。」
「そうだな。なにか、すること考えてくんね？」
「そうだな、今から帰れ、そして、もう来るな。わかったな。」
「いやだ、暇だから、帰ってもすること無い。他に行く場所もない。」
勉強でもやってろよ…、一応来年受験生だろうが、俺もだけど。
「帰って勉強でもしてくれ、もう家に来るな！」
「わかった！ここを、俺の家にするから。と言うわけで、もう帰ったから、すること無い！」
「死ね！元の家に帰って、寝てろ！」
「めんどくさいから嫌だ！」
「じゃあめんどくさいと思ってる時に来るな！」
「分かった、帰ったらいいんだな。」
「そうだよ！はやく帰れよ！こっちはまだ飯食ってねぇんだよ！」
「じゃあ、一時間後にもう一回来るから、家にいろよ！」
よし、とっとと飯食ってどっか行こう！じゃないとあいつらが来

て、めんどくせぇ！
「飯食うのも、別の場所で食おうかな……。」
２５分後
「どこも混んでてすぐに、注文できるような所がなかった……。ここで飯食って、とっととどこか行こう。」
じゃないと、また天河がくる！休みの日は関わりたくないのに。
「何食べよ、ラーメンでも作るか。」
「あっ、俺もお願い。味は味噌でね。」
「なんで、双馬、ここにいるんだ！また勝手に家に入ってきて！お前の将来は空き巣犯か！」
「お邪魔してまーす。」
「天川もなんで入ってきてんだ！とっとと帰れぇ！」
「暇だから、嫌だ！！」
「帰れ！飯食わせろ！」
「じゃあ、早く済ませてくれ。それまで、待ってるから。」
「お前等二人でどこかに行ってくれ！」
「行ってもすることが無いから、嫌だ！」
「自分でやること考えろ！今、かかわりたくないんだ！」
「わかった、じゃあ、また明日。お前の家にいるからな。」
「おう！……って、はぁ！勝手に家に入ってくるなって言ってるだろ！」
「でも、俺は、そのことは無視して勝手に入り込む！だから、気にするな！」
「気にするわ！気にするなっていわれても無理じゃ！頼むから、もう家来るな！」
「わかった、お前が家から出てくるまで待つから、これから、早く家から出ろよ！」
できるだけ、遅く行ってやろうか……。もしくは、こいつが来て

ないぐらいの早さで家出たろうか。
「もう入って来るなよ！」
「できたらな。じゃあ、また明日。」
「早く帰れ！天河も、帰れ！」
「わかったよー、また、明日。」
やっと帰った…。また明日、あいつ等に会うことになるのか…。
すげぇ、学校サボりたい…。
「……、そういや、飯食ってなかった。なんか食べよ。」
早く食って、テレビでも見て、寝よ。

6日目（後書き）

多分、次新しい人が出てきます！

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n4759s/

ドジで不幸な私はボロボロです…

2011年9月27日00時13分発行